



平成21年10月30日

各位

会社名 サコス株式会社
代表者の
役職氏名 代表取締役社長 中田 信二
(コード番号: 9641 JASDAQ)
問合せ先 取締役本社部門管掌 石川 忠
電話番号 03-3442-3900

平成21年9月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成21年8月10日付当社「平成21年9月期第3四半期決算短信」において発表いたしました平成21年9月期（平成20年10月1日～平成21年9月30日）の業績予想及び期末配当予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

1. 平成21年9月期 連結業績予想（平成20年10月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想（A）	12,500	228	203	△667	△7円60銭
今回修正（B）	11,888	26	31	△1,111	△12円66銭
増減額（B－A）	△611	△201	△171	△444	△5円6銭
増減率	△4.9%	△88.6%	△84.2%	－	－

※前事業年度は連結決算を行っておりませんので、記載しておりません。

2. 平成21年9月期 通期業績予想（平成20年10月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想（A）	12,500	228	203	△667	△7円60銭
今回修正（B）	11,864	33	1	△1,132	△12円91銭
増減額（B－A）	△635	△194	△201	△465	△5円31銭
増減率	△5.1%	△85.4%	△99.4%	－	－
（ご参考）前期実績 平成20年9月期	14,316	808	771	△143	△1円64銭

3. 修正の理由

当第3・第4四半期の我が国の経済状況は先の世界的な経済・金融危機を受け、政府の緊急支援対策等により一時期の最悪期は脱し、上場企業をはじめ大型倒産は沈静化傾向にあるものの、倒産件数は相変わらず増加しております。また、依然多くの企業は過剰設備や過剰人員を抱え、雇用・所得・消費環境の大幅な改善は短期的には見込まれにくく、視界不良の状態が継続しております。

建機レンタル業界を取巻く環境は前述の通り、建設業大型倒産も4月以降沈静しておりますが、一方では大手ゼネコンでさえ受注減が顕著になっている上、公共投資の減少は云うに及ばず民間設備投資の激減等、過去に例を見ない厳しい環境でありました。

このような状況の中、当社は『人・物・金・情報』の基本に立ち返り、更に内的要因強化として営業・商品・地域戦略で他社との差別化を図り、また、原価圧縮・経費削減等で最善の企業努力を重ねて参りましたが、想定以上に厳しい外的要因をカバーする事は如何ともしがたく、工事量減に伴う受注減が影響し売上高の減少を招き、更に同業他社との価格競争激化によるレンタル単価の大幅下落は営業利益・経常利益を押下げ、前回予想を大きく下回る見込みとなりました。

尚、当期純利益につきましても、繰延税金資産の回収可能性について、より保守的に見直したため、繰延税金資産の取崩し(1,100百万円)が増加し、前回予想を大幅に下回る見込みとなりました。

また、連結につきましては、平成21年6月に工事用電気設備工事を主な事業とする株式会社新光電舎を設立しましたが、設立間もないことから、連結業績に寄与するに至らず、同様に前回予想を下回る見込みとなりました。

II. 配当予想の修正

1. 修正の内容

(基準日)	1株当たり配当金	
	期末	年間
前回予想 (平成21年8月10日発表)	2円00銭	2円00銭
今回修正予想	0円00銭	0円00銭
当期実績	—	—
前期実績 (平成20年9月期)	2円00銭	2円00銭

2. 修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付けております。配当につきましても、期間業績に応じた利益還元を進めていくことを基本方針とし、前回予想では、年間配当金について、1株当たり2円00銭と発表しておりました。しかしながら、今回の業績予想の修正の通り、非常に厳しい結果となり、誠に遺憾ながら無配にさせていただきましたと存じます。

※ 業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき予測したものであり、リスクや不確定要素が含まれております。従いまして、当社グループを取巻く経済情勢、市場動向、競合状況等により実際の業績が記載の金額の予想数値と大幅に異なる可能性がありますのでご承知おき下さい。

以上